

Senkyo Concierge

選挙コンシェルジュ 10周年記念レポート



令和6年5月

松山市選挙管理委員会

目 次

1. はじめに.....	1
2. 選挙コンシェルジュ 10年の歩み	
(1) 設立の経緯.....	2
(2) 選挙コンシェルジュの役割・ネーミング	4
(3) 参加者数の推移.....	5
(4) 選挙を取り巻く背景と選挙コンシェルジュの活動期.....	6
① 成長期(H25～H28)	7
② 拡大期(H29～R1).....	10
③ コロナ期(R2～R4)	13
④ ポストコロナ期(R5～).....	16
3. 現役コンシェルジュレポート.....	18
4. コンシェルジュ OB コメント.....	31
5. 選挙コンシェルジュ活動への評価と今後の期待	
(1) 読売新聞東京本社 渡辺嘉久様.....	36
(2) 一般社団法人 WONDER EDUCATION 越智大貴様	38
(3) 総務省主権者教育アドバイザー 大隅哲平様.....	40
6. まとめ.....	42

1. はじめに

松山市選挙管理委員会は、平成26年2月に「若い世代の投票率を上げるために、若者と協働して若い発想を取り入れた選挙啓発を行おう」という思いから、学生を選挙啓発の有償ボランティアに任命する「選挙コンシェルジュ」制度を始めました。これまで114名の方を任命し、様々な主権者教育や選挙啓発を実施しました。取組は総務省が取りまとめた主権者教育の先進事例に掲載され、他の市区町村議会の議員から視察を受けるほか、マスコミにも取り上げられ、全国で注目を集めています。

この10年間は、18歳選挙権の導入や新型コロナの感染拡大など、選挙を取り巻く環境が大きく変化した期間でした。全国の動向と同様、投票率は低い状況が続いています。

「投票率が上がらないなら、選挙啓発は不要」なのではなく、「自分たちの将来をよりいいものにするために、若い人たちが政治に参加する気持ちを育む」取組を地道に続けていくことが大切です。いつかきっと、政治に参加する身近な手段である投票に繋がっていくはずです。

選挙は民主主義の根幹であり、選挙権は、歴史の中で勝ち獲ってきた大事な権利です。日本の将来のため、そして私たちの生活環境をより良くするため、ぜひ選挙権を行使し、政治に参加してほしいと思います。

最後に、この場をお借りして、選挙コンシェルジュに参加してくださった皆さん、また応援いただいた松山大学甲斐先生はじめ高校、専門学校、大学の先生方に、心からお礼申し上げます。

皆さま本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年5月吉日

松山市選挙管理委員会事務局

事務局長 大西 一司

2. 選挙コンシェルジュ 10年の歩み

(1) 設立の経緯

本市では若者の投票率を向上するための取組として、平成25年7月の参院選で全国で初めて大学内の期日前投票所を松山大学に設置しました。

その後、平成25年11月に大学がある清水地区タウンミーティングで、参加した地元の大学生から「選挙に関する説明会を開いてほしい」「大学生も行政に参画したい」との意見がありました。これを受け、大学連携について検討し、以前から学生の選挙啓発に関連して開票事務への学生派遣等に協力いただいていた松山大学の甲斐先生から選挙啓発活動に関心を持つ学生を紹介していただき、平成26年2月に選挙コンシェルジュ1期生4名を認定しました。



初代選挙コンシェルジュの皆さん

清水地区タウンミーティング(要約)

平成25年11月9日(土)

【男性】市長のお話にもあった選挙の話なんですけども最近若者の選挙離れが問題になっていると思います。選挙に対して関心がない、選挙の仕方がわからないなどという人が少なくないと思います。恥ずかしながら僕もその一人でその対策として選挙権のある大学生はもちろん、これから先選挙に参加することになる高校生・中学生・小学生に向けて毎年選挙前に1回選挙の説明会的なものを開いてくださればなあと思ってます。以上です。

【市民部長】市民部の吉野です。どうぞよろしくお願いいたします。選挙につきまして私も選挙管理委員会に昔、籍を置いたことがあるんですけども、選挙のときのPRしか若者の目には触れないかもわかりませんですね。それで今以上に選挙の啓発ですけども、特に高校生・中学生までも含めた若者にどうしていくかは選挙管理委員会にも伝えまして、もっと前向きに定期的にするとか検討できないかということ相談しますが、選挙管理委員会でもフェイスブックを始めております。それでまちづくり協議会と同じところから入れますのでホームページの一番最初の右の真ん中あたり、「公式SNS」を開くと4つほどフェイスブックが出てきます。ここに選挙管理委員会もありますので、よろしく願いしたいと思います。

【市長】そうですね、確かに選挙の前に選挙ってどんなものですかという説明はあまりしてないですね。いいご意見をいただいたと思います。先ほどのホームページの出ますかね。こんなことをやっているんですね。松山大学で行われる行政学の授業時間中に平成25年7月21日執行予定の参院議員選挙の投票呼びかけを行います。合わせて松山大学内で今回新たに開設する期日前投票所の利用及び松山市選挙管理委員会フェイスブックの周知活動を行います。松山大学の教室でっていう形ですね。おかげ様で松山大学に投票所を設けさせていただいて結構好評だったので続けていきたいなと思っています。ただ中には全部の大学でやってくださいみたいな声もあるんですけどもそうなると人の面と大学さんにご協力いただかないといけないのと、その箱とか持っていけないといけないので、できる限りやりたいと思っているんですけど、その辺の調整もしながらやっていきたいと思っています。いいご意見をいただきました。ありがとうございました。

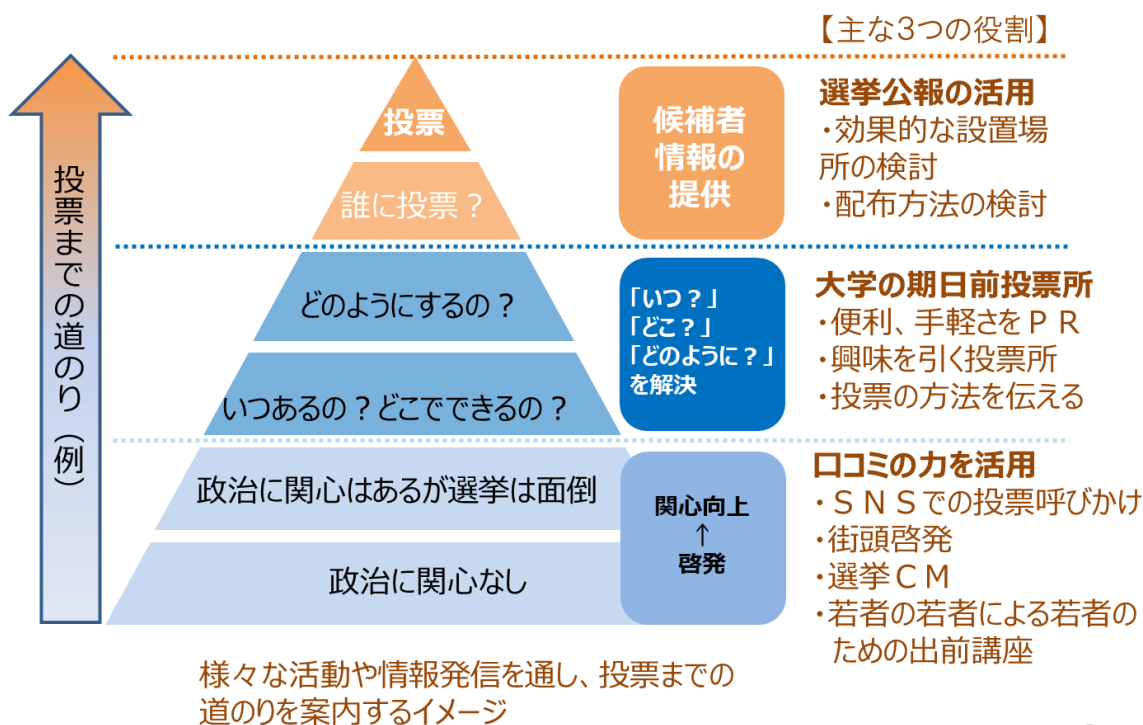
出典:松山市役所ホームページ

(2) 選挙コンシェルジュの役割・ネーミング

新たに任命した大学生の有償ボランティアは「選挙コンシェルジュ」と名付けました。「コンシェルジュ」(consierge:フランス語)は、ホテルなどで特定の分野の情報を紹介・案内する人のことを指します。

人が投票に至るまでを考えると、政治に関心がない人が最終的に投票するまでには様々な壁があり、乗り越えるには活動や情報発信を通して投票までの道のりを案内していく必要があります。

この「投票までの道のりの案内」を担う学生・有償ボランティアという意味を込めて、松山市では「選挙コンシェルジュ」と命名しました。



5

学生を単なるお手伝いではなく「案内役」とする発想は、以後10年間活動を継続・発展させるとともに、「選挙コンシェルジュ鹿児島」(鹿児島市)や「センキョコンシェルジュヤマグチ」(山口市)など全国で類似団体が生まれ、全国的に高く評価されています。

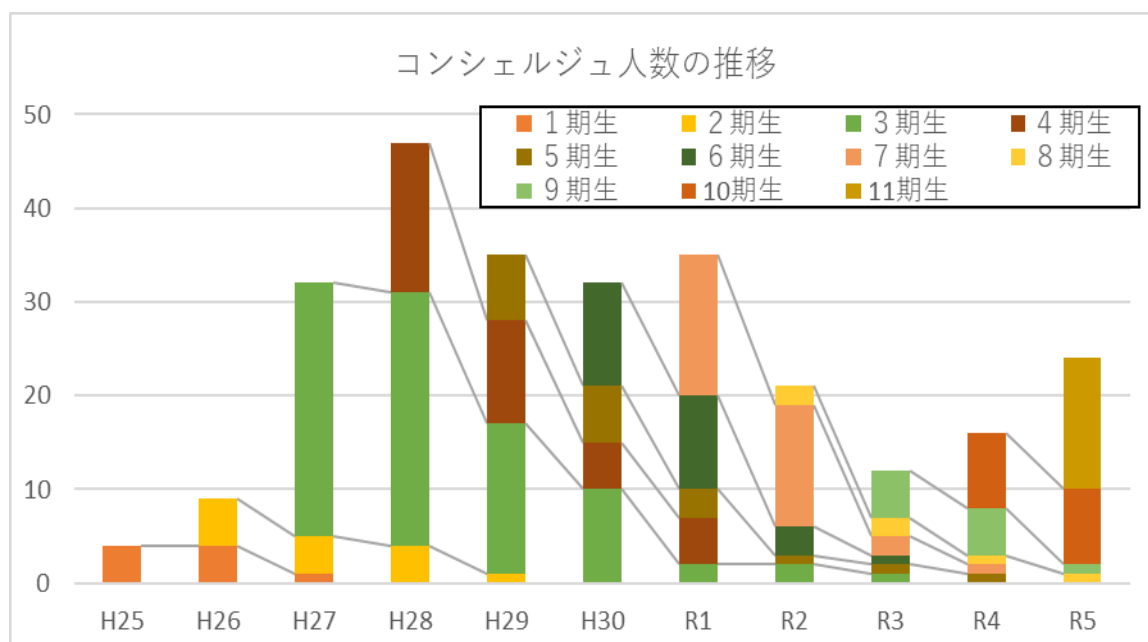
(3) 参加者数の推移

平成26年度以降、選挙コンシェルジュの任命者数は増加し、参議院議員通常選挙が行われた平成28年度には47人の大所帯となりました。

その後、新型コロナの感染拡大(令和2年～令和5年5月に5類移行)で縮小を余儀なくされたものの、毎年学生さんの参加があり、これまで114名の方を任命し活動しました。令和5年度末(令和6年3月)は24名の学生が参加しています。

各年度のコンシェルジュ認定・在籍人数

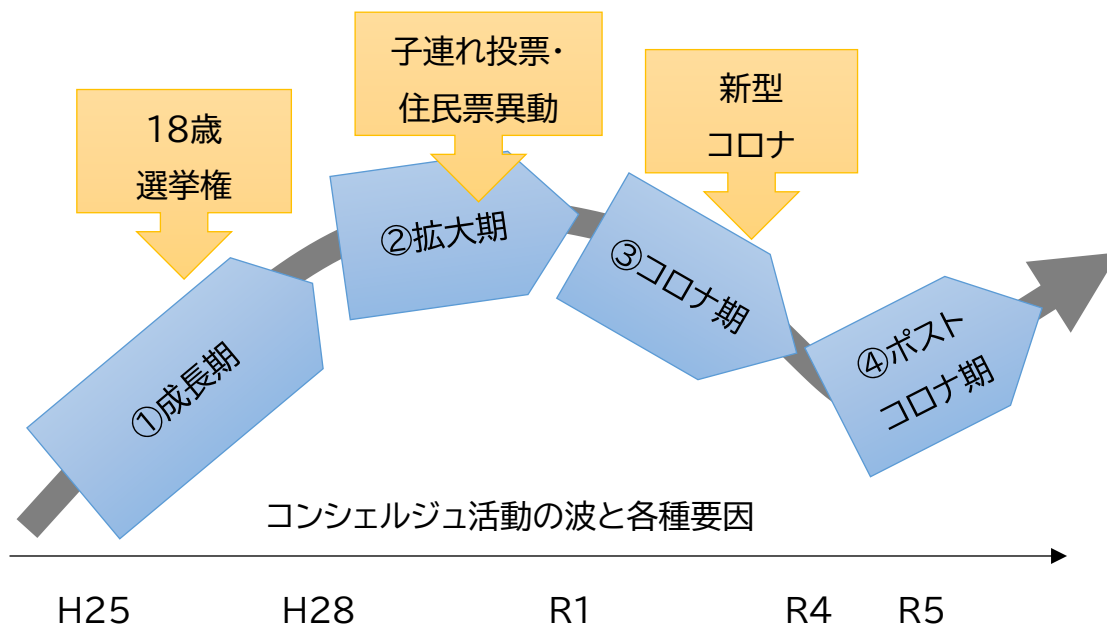
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
1期生	4	4	1								
2期生		5	4	4	1						
3期生			27	27	16	10	2	2	1		
4期生				16	11	5	5				
5期生					7	6	3	1	1	1	
6期生						11	10	3	1		
7期生							15	13	2	1	
8期生								2	2	1	1
9期生									5	5	1
10期生										8	8
11期生											14
在籍人数	4	9	32	47	35	32	35	21	12	16	24



(4) 選挙を取り巻く背景と選挙コンシェルジュの活動期

平成26年2月(25年度)以降、松山市選挙管理委員会は選挙コンシェルジュと協働で選挙啓発を行っています。この10年間を総括すると、大きく4つの時期に分けられます。

①活動開始後、平成28年度までの「成長期」、②平成29年度から令和元年度までの「拡大期」、③令和2年度から令和4年度までの「コロナ期」、そして④令和5年度の「ポストコロナ期」です。



各期の概要は次表のとおりです。

	年度	人数	概要	外的環境等
①成長期	H25～ H28	4人→47人	H28参議に向け各種事業を積極実施	H27 参議特別委員会 H28参議～18歳選挙権
②拡大期	H29～ R1	35人程度	子連れ投票や住民票異動の呼び掛け追加	子連れ投票の推進
③コロナ期	R2～ R4	21人→16人	コロナにより活動制限	新型コロナの感染拡大
④ポストコロナ期	R5～	24人	コロナ後で活動復活	コロナ5類移行

①成長期(H25～H28)

選挙コンシェルジュが誕生した平成26年2月以降、平成26年6月13日に「憲法改正国民投票法」が成立し、国民投票権年齢が満18歳以上になりました。さらに、平成27年に公職選挙法が改正され、翌平成28年の参議院議員通常選挙から選挙権年齢が満18歳に引き下げられました。

そこで、平成28年の参議院議員通常選挙での啓発を一つのターゲットとして、平成26年以降様々な啓発活動を実施しました。



啓発グッズの作成(H26 市議)



大学での啓発活動(H26 市議)



選挙CMの作成(H26 知事・市長)



投票所ボードの作成(H26 衆議)



選挙カフェ(H26 衆議)



期日前投票所設営(H26 衆議)

これらの活動は早い段階から全国的に評価され、平成26年11月には第9回マニフェスト大賞を、翌平成27年6月には全国広報コンクールで読売新聞社賞を受賞しました。

また平成27年6月に参議院政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会に、事務局長(当時)の竹村奉文氏が参考人として出席しました。竹村氏は、大学内期日前投票所の設置に加え、選挙コンシェルジュや選挙クルーといった大学生を巻き込んだ選挙啓発の取組を説明しました。

平成27年6月10日 第189回国会 参議院 政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会 記録(Web版)抜粋

○参考人(竹村奉文君)松山市選挙管理委員会事務局長竹村奉文でございます。よろしく願いいたします。

(中略)

それから、八ページ目でございますが、これは若干期日前投票所とは外れるんですが、せっかく大学構内に期日前投票所を開設をいたしますので、一番若者に近い人たちに選挙啓発に加わっていただくというようなことで、昨年の四月の市議会議員選挙から、まず松山大学さんの方をお願いをして四名の選挙コンシェルジュというものを認定をして、彼らに選挙啓発の企画から参加をしていただくようにいたしました。

そういう中で、彼たちが、様々なコミュニケーションのツールとして、いわゆるLINEだとかツイッターだとかフェイスブックだとか、そういったようなSNSを使っているというのも見えてきたと。それが彼らのいわゆるコミュニケーションの手段になっているというようなことも見えてまいりまして、そのコミュニティーの作り方が、我々が思っている地縁的なコミュニティーよりは、価値観というもののつながりによるコミュニティーの方が特に若い人たちはきずなとして強いんじゃないのかなというように感じてまいりました。

そこで、今年四月の県議選挙では、大学生が活動をしているNPO団体だとかサークルだとか、その他固まりになるようなところを登録をしていただくような選挙クルーという、いわゆる固まりでのコミュニティーというものを、我々はそこにターゲットを絞り込み、そしてそこから拡散するような戦術を今後展開したいなというようなアクションに変わってきております。

(後略)

平成27年4月の県議選を経て、平成28年7月の参院選は、18歳選挙権となって初の選挙であり全国的に活発な啓発活動が行われました。松山市選挙管理委員会も、選挙コンシェルジュと協力して様々な啓発活動を実施しました。

取組は、ニュースや新聞で取り上げられるなど、全国的に大きな反響があり、選挙コンシェルジュの取組は広く知られました。

その結果、「参院選啓発に係る総務大臣表彰」(H28.12)や「明るい選挙推進協会優良活動表彰」(H29.2)を受けました。



日めくりカレンダー



校内放送の収録



投票所×アート



浴衣で街頭啓発



CM 撮影



皆で行こう！投票キャンペーン

平成28年参院選 コンシェルジュによる啓発活動

②拡大期(H29～R1)

選挙コンシェルジュは平成29年以降、これまでの啓発戦略から企画・ターゲットを拡大して実施することになりました。

企画面の拡大は、「住民票異動の啓発」です。

平成28年7月の参院選について、松山市選管が大学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

回答した学生のうち市外に住所がある大学生は約6割を占めるとともに、投票しなかった人のうち3人に2人が棄権した理由を「松山市に住民票がない」と回答しました。



そこで、大学生に進学の際、住民票を異動してもらうため、平成29年4月に選挙コンシェルジュがデザインした住民票異動チラシを自ら配布する活動を始めました。

次に、ターゲット面の拡大は、「子育て世代への親子投票の啓発」です。

平成28年7月の参院選から投票所に同伴できる子どもが「幼児」から「18歳未満」に拡大しました。平成28年の参院選後、総務省が18歳～20歳を対象に実施した調査によると、子どもに親の投票に同伴した経験のある人は、無い人と比べ投票した割合が高いことが分かっています。

(行ったことがある人63% : 行ったことが無い人41.8%)

これらを踏まえて、選挙コンシェルジュは選挙啓発の企画・ターゲットともに範囲を拡大していきました。



H29.8 聖陵高校主権者教育



H30.2 市議 企画会議



H30.4市議 啓発物資発表会



H30.4市議 選挙カフェ



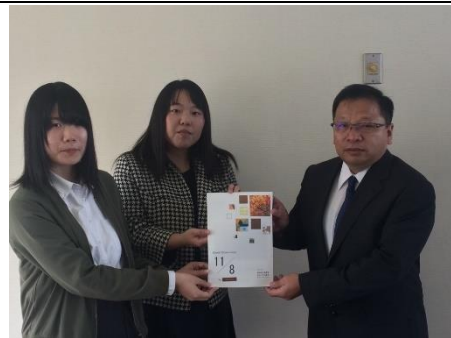
H30.4 市議 児童館配布物資



H30.4 市議 大学構内啓発



H30.10 知事・市長 おもちゃ総選挙



H30.11 知事・市長 日めくりカレンダー

—



H30.11 知事・市長 学祭出店



H30.11 知事・市長 街頭啓発

平成30年 市議選、知事・市長選 選挙コンシェルジュによる啓発活動



H31.4県議 啓発物資発表会



H31.4県議 済美平成主権者教育



R1.7参議 ポスター撮影



R1.7参議 セタイイベント



R1.7 参議 児童館啓発



R1.7 参議 親子向けチラシ



R1.7 参議 大学構内啓発



R1.7 参議 防災行政無線録音

平成31年県議選、令和元年参院選 選挙コンシェルジュによる啓発活動

③コロナ期(R2～R4)

令和2年1月に国内で初めて患者が発生した新型コロナウイルス感染症の流行以降、全国的に感染拡大が続き、国内の社会経済活動は大きな制約を受けることになりました。

選挙コンシェルジュの活動についても例外ではなく、選挙コンシェルジュは少人数で工夫を凝らし、効果的な選挙啓発の実施に努め、主権者教育も対面をやめ、オンラインでの参加が中心となりました。

 <p>R2親子投票啓発チラシデザイン</p>	 <p>R2.10 松山工業主権者教育</p>
 <p>R3.9 北条高校主権者教育</p>	 <p>R3.10 衆議 ポスターデザイン</p>
 <p>R3.10 衆議 学生祭での啓発</p>	 <p>R3.10 衆議 期日前投票所看板</p>

令和2年、令和3年衆院選 選挙コンシェルジュによる啓発活動

令和4年度は、4月市議選、7月参院選、11月知事選(市長選は無投票)、翌年4月県議選と、選挙が立て続けに行われました。選挙コンシェルジュは各選挙で選挙啓発のアイデアを出すとともに、様々な啓発活動を実施しました。

また、令和3年度に1年間、松山東高等学校で選択制授業「若者の投票率と選挙啓発」を受講した生徒7名を、令和4年に特例選挙コンシェルジュに認定しました。



R4市議 啓発グッズ発表会



R4市議 特例選挙コンシェルジュ任命



R4市議 選挙啓発下敷きの贈呈



R4市議 市駅前での選挙CM



R4参議 皆で行こう！投票キャンペーン
(松山東高校・特例コンシェルジュ)



R4参議 フジグラン松山啓発

令和4年市議選、参院選 選挙コンシェルジュによる啓発活動



R4知事 おもちゃ総選挙



R4知事 啓発グッズの配布



R4 知事 愛媛大学学生祭



R4 知事 皆で行こう！投票キャンペーン
(松山工業高校)



R5 県議 カウントダウン動画



R5 県議 大学構内啓発

令和4年知事選、令和5年県議選 選挙コンシェルジュによる啓発活動

④ポストコロナ期(R5～)

令和2年1月以降、世界的流行となった新型コロナウイルス感染症は、発生から3年余りが経過した令和5年5月8日、感染症法上季節性インフルエンザと同じ「5類」になりました。社会経済活動も徐々に回復に向かい、主権者教育も対面で実施ができる学校が増えてきました。

選挙コンシェルジュへの学生の参加も増え、毎月のミーティングも再開するなど活発に活動しています。

	
R5 休日子どもカレッジ	R5 松山東高校主権者教育
	
R5 愛媛大学学生祭	R5 おもちゃ総選挙
	
R5 ミーティングの様子	R5 聖カタリナ学園高等学校

令和5年度 選挙コンシェルジュによる啓発活動

(参考)コンシェルジュが実施した各種啓発活動(抜粋)

	選挙	コンシェルジュが実施した選挙時啓発	コンシェルジュが実施した常時啓発(特記)	主な出来事・表彰歴
平成25年度	(H25.7 参議)	(H25.7 松山大学内啓発)		H26.2 コンシェルジュ認定開始
平成26年度	H26.4 市議	選挙 CM、大学内啓発、選挙カフェ		H26.11 第9回マニフェスト大賞 H27.2 選挙クルー認定開始
	H26.11 知事市長	選挙 CM、ワークショップ、選挙カフェ、大学内街頭啓発		
	H26.12 衆議	facebook、街頭啓発等		
平成27年度	H27.4 県議	選挙 CM、SNS 情報発信、選挙カフェ、大学内街頭啓発等	主権者教育に本格参入(以降毎年実施) 5チームに分かれて啓発	H27.6 全国広報コンクール広報企画部門で読売新聞社賞
平成28年度	H28.7 参議	選挙 CM、日めくりカレンダー、投票所×アート、皆で行こう！投票キャンペーン、校内放送原稿、浴衣で街頭啓発	東雲女子大学でシンポジウムを開催(高知の団体を招聘)	H28.12 参院選啓発に係る総務大臣表彰 H29.2 明るい選挙推進協会優良活動表彰
平成29年度	H29.10 衆議・県議補選	SNS 情報発信、大学内街頭啓発、東雲大学で主権者教育	住民票異動の呼び掛け強化(新入生向けにチラシ配布開始)	
平成30年度	H30.4 市議	看板等デザイン、絵本入り折り紙、選挙カフェ 等	専門高校生・子育て世代を新たなターゲットとして啓発開始	
	H30.11 知事市長	おもちゃ総選挙、チラシ・ポスターデザイン、日めくりカレンダー、坊っちゃん・マドンナで街頭啓発		
令和元年度	H31.4 県議	ポスター、街頭啓発など	愛媛大学学生祭	(潮見公民館 まちかど講座)
	R1.7 参議	七イベント、絵本入り折り紙、ポスターデザイン、チラシ、選挙カフェ		
令和2年度	なし	-	(コロナ流行)(グローバル1年目)	
令和3年度	R3.10 衆議	衆議(ポスター、看板、大学内啓発物資設置)	(グローバル 2年目) 愛媛大学学生祭	
令和4年度	R4.4 市議	ポスターデザイン、選挙 CM、ポスター等発表会	特例選挙コンシェルジュの認定 愛媛大学学生祭	(R4.11 市長選は無投票)
	R4.7 参議	フジグラン松山にグッズ設置、ポスターデザイン、皆で行こう！投票キャンペーン		
	R4.11 知事	おもちゃ総選挙、ポスターデザイン、選挙 CM、皆で行こう！投票キャンペーン		
令和5年度	R5.4 県議	県議(カウントダウン動画、ポスター、大学内グッズ設置)	おもちゃ総選挙 愛媛大学学生祭	

3. 現役コンシェルジュレポート

この項では、現役の選挙コンシェルジュに、参加したきっかけや思い出に残っている啓発活動、今後の抱負などを自由に記載していただきました。

(肩書は令和6年3月現在)

(1)宮内 悠伍さん(松山大学人文学部社会学科4回生)

私が選挙コンシェルジュに参加したきっかけは、選挙管理委員会の次長さんに紹介されたことです。地元への大学進学を機に、声をかけて頂き、4年間コンシェルジュとして活動させていただきました。将来、中学校の社会科の教員になるという目標もあり、教員になる前に貴重な経験を多く積むことができました。



私が、コンシェルジュとして活動した中で印象に残っていることを2つ紹介します。1つ目は、学校で行う主権者教育についてです。私のはじめての活動が高校での主権者教育でした。当時は、コロナ禍であり、様々なことに配慮しながら、主権者教育を行いました。高校生100人以上を前に話すことに緊張していましたが、コンシェルジュの先輩方や、職員さんたちのあたたかいサポートで乗り越えることができました。主権者教育終了後に、高校生からの質問があり、選挙に身近に触れることができる機会の提供が必要なんだと、実感するとともに、私自身が選挙コンシェルジュとして、機会の提供を行っていかなければならないという、自覚が芽生えたことを今でも鮮明に覚えています。

2つ目が、児童センターで実施したおもちゃ総選挙です。今までは選挙権を得ることを間近に控えている高校生を対象として、主権者教育を行うことがほとんどでしたが、おもちゃ総選挙は、小学生や幼児を対象にしたイベントです。対象者に合わせて企画し運営することは非常に難しかったですが、親子で気軽に投票に行くことができるということを伝えさせて頂きました。イベント終了後、子どもたちから「楽しかった」「おもしろかった」という声や、保護者から「今度、子どもと一緒に投票へ行ってみようと思う」という声を頂き、イベントを実施してよかったと感ずることができました。この2つ以外にも、紹介しきれない多くの活動をさせて頂きました。私がコンシェルジュとして活動ができたのは、コンシェルジュの先輩方や、職員さんたちのこれまでの尽力があったからだと思います。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、選挙コンシェルジュが創設されて10年という節目を迎えることができたことを改めて嬉しく思います。次は、私が選挙コンシェルジュで経験したことや、育てて

頂いた松山市選挙管理委員会の職員さんへの感謝を忘れずに、教員として子どもたちや松山市、愛媛県のために全力を尽くす所存です。これからも、選挙コンシェルジュという存在が多くの人に認知され、活動し続けることができるようにお祈りしています。ありがとうございました。

(2)森田 峻介さん(松山大学人文学部社会学科4回生)

私が選挙コンシェルジュに入った当時、私自身選挙について全く関心が無かったです。しかし、選挙コンシェルジュに入って活動する機会が増えていくうちに、少しずつ選挙の重要性、選挙をする意味を深く知ることが出来てきました。



私が、選挙コンシェルジュとして活動してきたものとして、愛媛県立松山西中等教育学校、済美平成中等教育学校で行った主権者教育、愛媛大学の学祭での選挙ブースの出店、南部児童館で行ったハロウィンパーティーなど多くの活動する機会を与えていただきました。その中でも印象に残っている活動は、高校生を対象に行った主権者教育です。私たちとそんなに年の変わらない人に対して、選挙の重要性や意味について理解してもらうことは、簡単なものではありませんでした。私自身選挙についてまだまだ分からないことばかりだったにもかかわらず、アウトプットするにはハードルが高すぎました。また、学生という立場で私も教えられる側の人間にしかなくなったことがなかったので、初めての経験だし、不安しかなかったです。しかし、選挙コンシェルジュの仲間や、職員の方々と意見やアドバイスを出し合い、良い準備をすることが出来たおかげで、なんとか成功することが出来ました。やり終えて考えてみると、最初は、言われるがまま行動して発言することで精一杯でしたが、少しずつ自分の意見として発言することが増え、どう工夫したら聞いてもらう側の人に分かりやすくなるのかを、自発的に考えられるようになりました。

年が経って、選挙コンシェルジュの先輩の立場になると更なる責任感が芽生えるまでも成長しました。約2年間、選挙コンシェルジュでの活動を通して貴重な体験ばかりさせてもらい、本当に充実した時間を過ごすことが出来たと感じています。学生のうちから、何百人の高校生を目の前にして話す機会は滅多にない経験だし、主権者教育だけではなく、児童クラブ、愛媛大学の学祭などで行った活動で、多くの世代の方々と接する機会を経験することも貴重でした。選挙コンシェルジュとして活動することで、

選挙に関心があるか無いかによらず、それ以上に自分自身が社会人に近づくにつれて重要になってくるであろうことを、活動を通して経験出来ることが一番の魅力だと思います。

就職活動が本格的になって、私が4回生になると参加する機会が減ってしまいましたが、その期間は、下級生の新しい選挙コンシェルジュが入って、さらに活動を盛り上げてくれました。私は今年社会人になり、選挙コンシェルジュを卒業しますが、後輩の選挙コンシェルジュのみんなが、私たち世代の時よりも活発に活動してくれているので、愛媛県、松山市での投票率が少しでも上がるように期待しています。私も、2年間選挙コンシェルジュで得た経験を大切にして、胸を張って社会に出ていけるように頑張ります。最後に、学生である私たちを支えてくださった選挙管理委員会の職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。こちらの都合で多々迷惑をおかけしてしまいましたが、貴重な、充実した時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。支えあってきたコンシェルジュの仲間にも感謝しています。

(3) 藤井 剣人さん(松山大学人文学部社会学科4回生)

私が選挙コンシェルジュとして活動したいと思ったのは、近くで市役所職員の方の仕事を拝見し、自分で仕事を体験してみたかったからです。私は当時漠然と将来は公務員になりたいと考えていたため、自分のイメージと実際の仕事内容のギャップを明確にできる最高の機会だと考え、参加したいと思いました。



私がコンシェルジュとして活動する中で特に印象に残っていることを2つ紹介します。1つ目は初めての主権者教育です。高校生に対してスライドを使用し、クイズなどを交えながら選挙の大切さを伝えました。本物の投票用紙を使った模擬投票も行いました。私はできるだけ高校生に選挙を堅苦しいものと考えてほしくなかったため、クスッと笑ってもらえるポイントを作ることを意識しながら発表を行いました。しかし、全校生徒の前ということもあり、緊張して自分の理想としていたようなものは出来ず、悔しいものとなりました。しかし、終わった後生徒さん達から「面白かった」、「いい勉強になった」などと言ってもらい、他ではなかなか味わえない貴重な経験となりました。

2つ目はおもちゃ総選挙です。児童館に新しく増えるおもちゃを、選挙を利用して決めました。私は参加した2回ともめいすい君になりました。大きな着ぐるみということもあり、子供たちからは大人気でした。子供たちが最後まで会場にいてくれるように、自我を抑え込み完全にめいすい君になりきりました。たくさん写真を撮り、

喜んでくれたようで私自身非常に達成感がありました。

他にも様々なことを体験させていただいたことで、公務員の仕事のイメージが明確になり、公務員の仕事の幅の広さに驚きました。それが他の職業にはない魅力だと思っているので、春からは松山市役所の 1 員として精進していきたいです。これからも選挙コンシェルジュが活動し続けられることを願っています。ありがとうございました。

(4)北 愛加さん(松山大学経済学部経済学科4回生)

○コンシェルジュ参加の経緯

私が、松山市の選挙コンシェルジュに参加したきっかけは大学で同じ教職を取っている同級生から紹介されたことでした。当時、大学 3 年で教職の公民の授業を取っており「政治」関連の何かをしてみたいなと漠然と考えていました。そんなときに、同級生がこの活動を教えてくれ、説明や自分で調べていく中で若者が、若者への投票を呼び掛ける活動は面白そうだなと感じ実際に参加しました。

○イベント等に参加しての感想

コンシェルジュに入ってから実際に活動に参加した回数は少なかったですが、「おもちゃ総選挙」のイベントに参加した時はとても面白かったなと感じました。職員の方と大学生が一緒になってイベントを作ろうとする過程は大学生にとって大変有意義な時間だなと実感しました。多くの自治体が大学生を巻き込むことに悩みを抱いている中で大学生と職員が一緒になって活動しているこの団体が主催するイベントに参加することは自身のためにもなると感じました。



○今後の抱負

私は、今年以降なかなか活動に参加ができない状況になります。しかし、場所を変えても若者の投票率に関する問題は付きまっています。なので、私の今後の抱負は選挙や政治に関してより興味を持って自分事として捉え、参加することです。なかなか周りの人を巻き込むのは難しいですが、社会人になるからこそ学生とは違った目線から選挙や政治を捉えることが出来るのではないかと思うので、この抱負を基に行動をしていきたいなと決めました。

(5)堀 陽斗さん(愛媛大学法文学部人文社会学科4回生)

私が選挙コンシェルジュを始めた理由は、愛媛新聞を読んでいる際に松山市の選挙の投票率が低かったことを目にしたからです。選挙の投票率が低いことは、国や自治体の政策が一定の世代を優遇した政治が行われてしまいます。そこに危機感を抱き、大学の講義で選挙コンシェルジュのボランティアを募集していたため、始めることにしました。

ボランティア活動を通して、印象に残っていることが2つあります。

1つめは、松山北高校中島分校で講演させていただいたことです。人前で話すことがあまり得意ではなかったため、緊張したことを今でも覚えています。内容は、先輩や他の同級生もいたため講演は上手くいきました。それでも、選挙の重要性を伝えるためには選挙を学ぶことだけでなく話すことに対しても頑張っていく必要があると考えました。そのおかげで、他の講演では以前より人前で話せるようになり、今では学生の興味や関心など話の工夫をつけるように励んでいます。また、中島分校で講演させていただいた際に学生たちと話す機会があり、講演後声をかけていただいたのも思い出です。高校生と交流することで、学校や部活には興味や関心を抱いているが、社会事情などについては一切興味がなかったことも記憶に覚えています。自分達が選挙について伝えるには、まずその聴く人の事情や状況にも目を向けることが大切だと知りました。



2つめは、大学祭で出展したことです。大学生と職員一緒に学祭を盛り上げようと励んだことで多くの人に選挙の重要性を伝えることが出来ました。「松山選挙コンシェルジュ」のインスタのフォロワーも50人以上増やして前日より多くのフォロワーを増やすことが出来ました。

ただ僕がここで強調したいのは、選挙の重要性を伝えるという結果よりも大学生と職員が一緒になって頑張ったことが大事だと思っています。選挙コンシェルジュは学生が主体となって動くが、職員も一緒に参加して手伝うことで職員方の新たな一面を知るきっかけになりました。コミュニケーションが上手なことやトラブルがあった際にすぐに対処したこと、お菓子を差し入れてくれることなど自分達が学ぶべき点が多かったです。また、学生と職員で企画から楽しく作成していたこともあり、出展する側も楽しめたのが一番の思い出です。ボランティア活動をするときに、どうしても頑張ることに目が向いてしまいます。その時に、頑張ることだけでなく自分達も楽しむことができるのは選挙コンシェルジュならではの活動だと考えています。

(6)中里 勇輝さん(松山大学法学部法学科3回生)

私は大学2回生の時に選挙コンシェルジュに入りました。私が選挙コンシェルジュに入った理由はテレビで松山市の投票率が下がっているというニュースを見たからです。少しでも松山市の投票率を上げるために活動したいと思い、選挙コンシェルジュに参加しました。私は選挙コンシェルジュとして主権者教育や選挙啓発に取り組んでいます。

主権者教育では依頼があった中学校や高校に行き、模擬投票を行いました。その際に候補者役として人前で話す機会があります。私は人前で話すのが得意ではありませんでした。しかし、コンシェルジュの活動を通して人前で話す機会が増え、自信をもって人前で話すことができるようになりました。大学生になってから高校生や



中学生と話す機会はほとんどなかったため、年代の違う方と話し意見交換することはとても有意義な時間になりました。若い人たちの投票率は世代別で見ても低いので少しでも選挙に興味をもってもらえるように取り組んでいきたいです。また、私は高松で行われた選挙の勉強会にも参加させて頂きました。そこで選挙コンシェルジュの活動を説明しました。事前に選挙管理委員の方と説明で使うパワーポイントの資料を作りました。パワーポイントはあまり使ったことがなかったため資料作りには苦戦しましたが、自分の納得する資料を作ることができました。説明本番では使う予定であった動画が流れないなどのトラブルもありましたが、無事に終えることができました。この経験から準備の大切さについて考える機会にもなりました。また、幅広い年代の方と選挙について意見交換する機会にもなり、様々な知識や考え方を知り、貴重な経験を積むことができました。

選挙コンシェルジュに入ったことで選挙に関する知識を増やすことにもつながり、企画の発案から運営をするといった体験もできました。また、公務員の方と一緒に仕事をする機会を得ることができたのも嬉しい経験の一つです。今後も選挙コンシェルジュとして少しでも選挙に興味をもってもらい、投票する人が増えるように活動していきたいです。

(7)松本 空大さん(松山大学法学部法学科3回生)

私が選挙コンシェルジュに入ったきっかけは、大学生の間に新しいことをしたいと思ったからです。具体的に何をしようかと考えていた時、友人が選挙コンシェルジュの存在を教えてくださいました。選挙の知識はあまりなかったのですが、公務員の方とお話し

する中で、この活動を通じて選挙に関する知識を深めるとともに、若者に投票の大切さを知ってもらいたいと思い、選挙コンシェルジュに参加しました。



私が選挙コンシェルジュとして活動した中で印象に残っているのは、主権者教育と大学の学祭です。主権者教育では選挙との関わりが少ない高校生に興味を持ってもらうため、本物の投票用紙や投票箱を使った模擬選挙を行いました。候補者役として演説することになりとても緊張しましたが、高校生が真剣に

取り組んでくれたことでとてもよい模擬選挙になりました。また、始まる前に選挙のことはよくわからないと話していた高校生が、模擬選挙の後には18歳になったら選挙に行ってみたいと言ってくれたことがとても印象に残っています。大学の学祭では選挙についてのクイズを出し、答えてくれた人に選挙イメージキャラクターのめいすいくん缶バッジをプレゼントしました。始まるまでは選挙のクイズに興味をもってくれるか不安でしたが、子供から大人までたくさんの人に選挙のことを楽しく知ってもらうことができ、とてもよかったです。

様々な選挙コンシェルジュ活動を通して公務員の方や民間企業の方と交流でき、普通の大学生活ではすることのない貴重な体験をさせていただいていると感じます。さらに当初の目的の1つである選挙に関する知識を深められています。しかし、まだまだ若い人が選挙のことを学べる場所や機会の提供が足りないと思うので、継続的な主権者教育やSNSを活用して選挙に興味をもってもらえるような環境作りをしていきたいです。

(8)石丸 由樹さん(松山大学経済学部経済学科3回生)

私が選挙コンシェルジュの活動に参加したきっかけは、母の影響です。自身の母が松山市役所に勤務しており、幼い頃からその母の仕事への姿勢などから、選挙に携わることの魅力や意義を感じていたため、この機会にぜひ参加しようと思いました。



選挙コンシェルジュとして活動した中で特に印象に残っているのは、南部児童センターで行ったおもちゃ総選挙です。そこでは、幼児から小学生を対象に、選挙について触れて楽しく体験できることを目的として

取り組みました。子どもたちが将来選挙権を得たときに今回のような活動や投票体験を思い出して、実際に投票所に足を運んでもらえるきっかけになればいいなと感じました。

現在は松山市の選挙管理委員会の SNS のフォロワー1000 人を達成させるためにチームで試行錯誤しながら取り組んでいます。SNS による啓発活動はより多くの人に認知してもらえるメリットがありますが、間違った情報を流して誤解を招く恐れもあるということを理解した上で正しく活用していきたいです。

これからの選挙コンシェルジュ個人としての目標は、主権者教育にも積極的に参加して若い世代に選挙の大切さや魅力を伝えていきたいです。選挙コンシェルジュ 10 周年おめでとうございます。今後ともよろしくお願いします！！

(9)吉川 太翔さん(松山大学経済学部経済学科2回生)

私が選挙コンシェルジュに入ったのは先輩に紹介されたことがきっかけでした。大学の授業で偶然先輩と話す機会があり、当時私はアルバイトを探していて、公務員を目指していることもあり、そこで先輩の紹介を受けて参加することに決めました。



私が選挙コンシェルジュの活動で参加したのは二つあり、一つは学祭の出店で、選挙に関するクイズとガチャガチャのお店を出しました。学祭が始まる前はお客さんが来るか不安でしたが、当日は子供たちを中心にたくさんのお客さんに来ていただき、インスタの新規フォロワーも目標を大きく上回る結果となりました。特にめいすい君の着ぐるみの集客力が凄まじかった

のが印象に残っています。

二つ目は特別支援学校での主権者教育です。進行は職員の方が務め、私は補佐役でしたが、主権者教育に初参加する私にとっては丁度いい経験でした。印象的だったのは高校生たちが挙手や発言など積極的に授業に参加してくれたことです。そのおかげで職員の方が授業を進めやすそうで、私も主権者教育に対する不安が減りました。

選挙コンシェルジュに入ってから、私自身選挙に対する関心が強まりました。また、職員の方と一緒に活動することで貴重な経験も積むことができました。今後も活動を続けて、選挙に関心を持つ人を一人でも多く増やせたらと思います。

(10)杉本 和歌菜さん(愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科1回生)

私は大学の友人に誘われて選挙コンシェルジュに参加しました。はじめは学校で習った選挙についての知識をうっすら覚えているくらいでしたが、約一年間の活動を通して理解を深めることができましたと思います。



私が参加したイベントは主に三つあります。

一つ目は高校での主権者教育です。選挙管理委員会の職員の方々の助言をいただきながら、メンバーと議論を重ね一時間の授業を作りました。大学生の目線から今の高校生に伝えたいことを伝えることができたのではないかと思います。この主権者教育の授業が初めて参加するイベントだったためうまくいかないところも多々ありましたが、メンバーと協力し授業を終えることができました。このイベントでうまくいったところいかなかったところをきちんと次回のイベントの時に生かしていきたいと思います。

二つ目は愛媛大学の学園祭です。選挙クイズを実施し、ガチャガチャを設置しました。めいすいくんも参加したのだが子供にかなり人気でした。めいすいくんのおかげもあり子供と一緒に来た家族でブースがにぎわっていたように思います。インスタグラムの登録もかなりの方にしていただけました。大学生もめいすいくんを見てかわいいなどの感想を言っていたので、若者に対しての選挙啓発にめいすいくんは効果的なのではないかと感じました。今後めいすいくんをどのように選挙啓発活動に登場させることができるか模索していけたらと思っています。

三つ目はおもちゃ総選挙です。このイベントは小学生、幼児及びその親を対象としたイベントでした。紙芝居形式で選挙に関する話を行った後に、実際にクリスマスに会場となった児童館に贈られるおもちゃを決める選挙を体験してもらいました。このイベントでは会場や使う道具の飾りつけにも力を入れました。準備の時間もその分かりましたが、満足のいく仕上がりになったと思います。当日も楽しくイベントの運営ができました。小学生に対してのイベントは内容をかみ砕いてわかりやすく伝えることやまだ遠く感じるであろう選挙の話に興味を持ってもらうことなど高校生に対する授業とはまた違う難しさを感じました。

私が参加した大きなイベントは以上の三つだが、選挙コンシェルジュミーティングでもほかのコンシェルジュの方との交流を通してたくさんの刺激を受けることができます。自分自身まだまだ経験が浅いので今後の活動を通してさらに成長していきたいと思います。また、これからも様々なイベントを通してたくさんの人に選挙について少しでも興味を持っていただけるようになれば良いなと考えています。

(11)河田 志帆さん(愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科1回生)

選挙コンシェルジュとして活動を始めてから気づけば 9 か月が経ちました。選挙コンシェルジュになったきっかけは大学で仲良くなった友人からの誘いです。私は松山市内の高校出身で、その高校では有志の生徒が興味のある分野の勉強や課題研究をすることができる特別授業がありました。その時に私が選んだ分野が選挙や投票、そしてその分野の外部講師が現在コンシェルジュでお世話になっている松山市選挙管理委員会の方々でした。そのようなご縁もあり選挙コンシェルジュになることを決めました。



選挙コンシェルジュになってからは高校時代の特別授業ではできなかった様々な経験をさせていただきました。選挙管理委員会の方から選挙について教わるだけではなく、母校の生徒に向けて主権者教育を行ったり、大学祭でブースを出したり、児童館で行うイベントに参加したりしました。主権者教育では一緒に授業をするコンシェルジュ

であり友達でもある5人で授業内容の方向性や構成を一から決めて準備を進めていて印象に残っています。選挙コンシェルジュには加入前からの友達も多くいますが、学校も学年も違う先輩たちも大勢います。特に児童館のイベントの際は参加者が他大学の先輩ばかりで一時は緊張していましたが、イベントの準備でコミュニケーションをとっていくなかで段々緊張が解けて楽しくなったことを今でも覚えています。同世代だけどただ大学で過ごしていたら出会えないような人達と一つのプロジェクトを進めて仲良くなれることは選挙コンシェルジュの魅力の一つとも言えるでしょう。

今後もコンシェルジュを続けるにあたって、「選挙」コンシェルジュとして選挙啓発を進めていくことはもちろんですが、たくさん声をかけてくれた先輩たちに倣って次に加入する後輩たちとコミュニケーションをとって、楽しく活動できる場にしたいです。

(12)島津 理加さん(愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科1回生)

選挙コンシェルジュの活動を初めて知ったのは、大学の友人と話していた時でした。まだ大学に入学して間もないころで、それまで一度もアルバイト経験がなかった私は未知への好奇心からすぐその話に飛びつきました。市の選挙管理委員会が大元のアルバイトと聞いていたので危ないことはやらされないだろうがいったいどのような活動をしているのか、活動に参加するようになるまで全く知りませんでした。

選挙コンシェルジュという団体は全国的にみてとても珍しい団体で市の選挙管理委員会が運営し、地域の小中高生などのどちらかと言えば若年層へ向けた啓発活動を多く行っています。私も去年の秋に松山東高校で選挙啓発のための出前授業を行いました。事前準備の時には「どうすれば話を聞いてくれるか」、「どうすれば退屈せずに話を聞いてくれるか」、などを話し綿密な計画をたてて行ったのが功を奏したのか、終始良い雰囲気の中授業を終えることができました。



「選挙の啓発活動」と聞くと難しく感じますが、活動の対象としているのが子供から大人まで幅広いです。そのため、誰もが興味を持ってくれるように選挙について伝えなければならないので難しいと感じることもあります。しかし、この活動に参加し、初めて出会った人とコミュニケーションをとり試行錯誤を繰り返すのはとてもやりがいがあります。これからもこの活動を続けていきたいと思います。

(13)山内 彩羽さん(愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科1回生)

私は大学一回生の6月から選挙コンシェルジュとして活動させていただいています。友達が誘ってくれたことがきっかけでこの活動を知りました。選挙に特別詳しいわけでも、選挙に人一倍関心があるわけでもなかった私がこの活動を始めた理由は、なんとなくやってみたいと思ったからです。選挙コンシェルジュとして選挙啓発を行なっていくうちに自分自身も選挙について学んでいくことができました。

選挙コンシェルジュの活動の中で特に印象深いものが二つあります。

一つ目は、松山東高等学校で行った主権者教育です。自分たちでパワーポイントを用意し、どうしたら高校生にいいことがうまく伝えられるか会議を重ねました。私自身も中高生の頃、外部の方から主権者教育を受けた経験があります。その経験や自分が普段授業を受ける立場であるという強みを活かし、よりわかりやすい表現になる



ように努めました。その結果、本番では予想以上に生徒の反応がよく、とても励みになりました。

二つ目は、日々のミーティングです。なぜこの活動を挙げたかという、ミーティングは自分自身が知識を吸収できる場だからです。仲間や選挙管理委員会の方々と様々な角度から意見を出し合い、議論し合うことでよりよい案を出して

いく時間は、私にとって大きく成長できる時間だと感じています。また、ミーティングに参加すると今まで知らなかった選挙の実情を知ることができます。

選挙コンシェルジュの強みは選挙コンシェルジュ自身が大学生であるということだと思います。学生という立場だからこそ、社会人の方々と違った視点で物事を考えることができます。社会人である選挙管理委員会の方々と大学生である選挙コンシェルジュのそれぞれがもつ特性や強みを活かし、足りない部分を補い合いながら活動を続けていきたいです。

私はこの一年間で貴重な経験をたくさんさせていただきました。次年度からも楽しみながら周りの方々と巻き込んで、選挙啓発をしていきたいです。選挙の大切さを伝えていくとともに自分自身も学んでいく姿勢を忘れない年度にしたいです。

(14)佐々木 優真さん(愛媛大学工学部工学科1回生)

私が選挙コンシェルジュとして活動するにあたっての目標は、一人でも多くの人に選挙や政治そのものに興味・関心を持ってもらうことです。

なぜこの活動目標を立てたのかというと、若者を中心として投票率が少ないという社会問題について昔から興味があり、それを解決することに携わってみたいと思ったからです。選挙に行って投票をするということはすなわち、政策や税金の使い道を投票によって選んだ政治家に委ねるということです。投票に行かないということはその権利を捨ててしまっているのと同じことだと言え、それは自分たちが暮らす地域や環境をよりよくできる可能性をも無くしてしまっていると私は思います。

それを少しでも防ぐための選挙啓発活動の一環として、現在 SNS チームでの活動にも力を注いでいます。インスタグラムなどの SNS を用いて選挙啓発活動を行うことは、その普及率の広さから特に若者の投票率向上へ大きく貢献できると思ったため、私はこのチームに参加しました。カジュアルさも投稿に含めることで選挙特有の堅いイメージを崩し、より身近なものに感じてもらえるような投稿ができるように、そして多くの人に実際に投票所まで足を運んでもらえるように頑張りたいです。

この目標を達成するためにも、他のメンバーとお互いに得意なことを生かしあい、普段のミーティングはもちろん SNS チームでの選挙啓発活動や各種イベントに積極的に参加し、自分にできることを精一杯頑張っていこうと思います。



(15)小山 拓斗さん(愛媛大学工学部工学科1回生)

私が選挙コンシェルジュのメンバーに参加したのは昨年の大学の夏休みでした。選挙コンシェルジュに入った理由については、日本の若者の投票率の低さによる危機感からでした。私は、中学生のころから新聞や、日本の主要メディアを閲覧して日々ニュース情報を入手しています。



そうした日々のニュースに接しているときに、海外の選挙ニュースを見た時、多くの海外の若者が、投票所で票を投票している様子を見て、日本ではあまり見られない光景に衝撃を感じました。実際に日本の10代、20代の若者の投票率は非常に低く、過半数の人が前回の参院選で投票をしていない。これは非常に良くない状況だと思っています。

なぜ、投票率が低い状況を良くない状況といえるのかということ、日本の民主主義国家として、成人一人一人に選挙権が与えられていることは当たり前ではないからと考えているからです。世界を見た時に、国民が平等で公正な選挙権が与えられているのは世界人口の約3割しかおらず、現在80億人いる中の約24億人の人々しか、国民の代表を自ら選べない現実があります。また、日本国民全員が成人を迎えるのと同時に選挙権を持てるようになり、現在までその制度を維持しているのは、歴史の教科書に出てくる多くの日本の偉人たちの努力によって実現されています。このことから、選挙権というのは、大切な権利の一つであるという自覚を、一人でも多くの若者が持ってほしいと思っています。だから、私はこの低い投票率を、これからの時代を担う若者の投票率を上げるための取り組みをしたいと高校生の頃に思い、コロナが落ち着いてきた大学進学を機に活動をしたいと考えていました。

昨年に色々大学でやっているうちに、同じ学部の同級生からこの選挙コンシェルジュを紹介してもらい、かねてから自分がやりたいと思っていることと一致していたので、迷わずに参加させてもらいました。去年は、大学での様々な活動が多く、選挙コンシェルジュとしての活動は、ほとんどできなかつたのですが、今年からは積極的に参加できるように頑張りたいと思います。また、イベントにもできるだけ積極的に参加するようにして、自らの思いを一人でも多くの小中高生に伝えるために頑張っていきたいです。

4. コンシェルジュ OB コメント

(1)1 期生 内藤 菜々栄さん



私は大学時代に NPO 法人松山大学学生地域創造研究所 Muse に所属しており、お遍路マップの作成、小学生の農業体験、町の清掃など、様々なイベントを通して地域と連携し、まちづくりを支援する活動をしていました。学生達が自ら考え、主体的権限をもち行動することは、選挙コンシェルジュ、そして投票することに通ずるものがありました。

2013年7月の参院選で、全国で初めて大学内に期日前投票所が設置され、PR活動のお手伝いをさせてもらったことをきっかけに選挙コンシェルジュになりました。投票しやすい、休み時間に気軽に行けると周りの反応が良く、少しでも選挙啓発できたことが嬉しく、その時から私たち若者が投票に行きやすくする為にはどのようにアプローチすればいいか考えるようになりました。

2014年12月、東京で行われた明るい選挙推進協会主催の若者リーダーフォーラムに参加した際は、たくさんの学生たちが選挙啓発活動をしていることに驚きました。それぞれが積極的に考え、ニュースについて語り合うイベントや学校と連携した主権者教育などを行い、工夫して活動をしている姿にとっても刺激を受けました。松山市での大学内期日前投票所、選挙コンシェルジュは想像以上に注目されており、参加していた学生から自分の大学でも実現させたいとアドバイスを求められたり、間違いなく松山市が全国へ影響を与えていました。この時に会ったリーダー達とは現在も交流が続いており、互いに様々な選挙啓発イベントに参加して意見交換をしています。

私が初めて投票に行った時、緊張感と責任を持って投票したという達成感がありました。候補者がどのような政策を出しているのか調べ、自分の思いに合った候補者へ投票する。私は、選挙という社会、政治に対して意思表示ができる機会を大切にしたいと思っています。18歳選挙権が実現されてから若者の投票率が注目されていますが、ぜひ18歳になった時には私が初めて味わった感覚をみなさんにも感じてほしいです。自分が住んでいる町、国がどのようになってほしいか思い描き、その1票に意味を持って投じてほしいです。

投票しやすい環境づくり、自ら知りたいと思える仕組み、住民票の問題など、これからも様々な課題があるかと思います。選挙コンシェルジュには、ひとりひとりの政治に向き合う姿を大切に、主体的に選ぶ意識をつける、そのきっかけの手助けをしてほしいです。

(2)2期生 内田 夏未さん

第二期生の内田夏未です。選挙コンシェルジュの活動はどれも楽しかったのですが、特に印象に残っているのは、報道番組のnews zeroに取り上げていただき、桐谷美玲さんを生で拝見したことです(笑)でも1番嬉しかったのは「あなたのコンシェルジュの活動を見て、選挙に行かなきゃって思ったよ。投票してきた」と身近な友達が言ってくれたことでした。



芸能人でも何者でもない私に、大きな影響力なんてあるはずもなく…ただ、意志を持って活動することで私の周りだけで起こった1人の行動の変化。そんな小さな変化が波及して、誰かの想いを叶える力を持つようになるかもしれない。そうやって自分が関われる範囲の人にメッセージを伝えていくことは、選挙コンシェルジュの肩書きがなくなっても続けていこう。同様の内容を活動記録として最後に綴ったことも、9年経っても覚えています。そして、同じ思いを持ち続けています。

今、私は就労支援の現場でいます。みんなが進路や仕事を『選び』、それぞれの想いを叶えていくその瞬間に携わっています。目の前の人に応援のメッセージを伝えながら、選挙コンシェルジュの益々のご活躍を期待しています。現役のみなさん、楽しんでください！

(3)3期生 山中 真由さん



選挙権年齢が引き下げられるタイミングだったので校内放送の原稿作成、録音、投票日を知るCMの企画に携わったことが印象に残っています。

様々な人と関わる機会を通して企画力やわかりやすく伝える力が身につき、それは社会人になった今でも役立っています。

私は高校生から参加させていただき、当時は選挙権がない立場でもあり、少し不安もありましたが、心強い職員の方はじめコンシェルジュメンバーと関わることはとても良い経験でした。少しでも興味があれば是非参加してほしいなと思います！

(4)3期生 内藤そよ香さん

選挙コンシェルジュ10周年、おめでとうございます！

CM作成や、浴衣で街頭啓発、皆で行こう！投票キャンペーンなど貴重な活動の機会をいただきました。本当にありがとうございました！！

特にCM作成では演劇部の仲間の協力や、大学生の撮影クルーの皆さん、選管のみなさんのお力添えがないと成し得ないことでした。たくさんの方が一つのものを作るのに真剣になる姿をみていたので、実は完成したのを見た時には言葉にし難い感動がありました。その後は、友人から投票行ったよ！と聞いたり、一緒に行ったり、活動を通して選挙自体に関わりやすさを感じてもらうことができたのではないかと思います。



どんな活動でも、想いがあれば伝わると実感しました！

これからも皆さんの活動が誰かのきっかけになることを願っています！

(5)4期生 浅山 莉奈さん

◆コンシェルジュ活動での一番印象に残ったこと



自大学(松山東雲女子大学)にて講座を行ったことが印象に残っています。

高校生のときや1年生のときは、受ける側だったので、前に出て話すことは、不安もありました。

しかし、職員の皆様、仲間のフォローもあり、いい経験をすることができました。

◆就職について

昨年までは、北九州市のほうで働き、2023年4月からは今治、夢スポーツのしまなみ野外学校に勤務しております。

◆役に立ったこと

選挙に関しては、興味関心が深くなったと思います。

北九州に住んでいた際にも、何度も選挙を経験し、期日前を利用し、選挙＝やらなければならないものではなく、ごく当たり前ことと捉え、投票に赴くことができていると感じます。

また、大学4年次に行った「日独学生青年リーダー交流事業」では、選挙が話題に

あがったので、選挙コンシェルジュでの知識や経験を生かしたドイツの方との討論もすることができました。

◆メッセージ

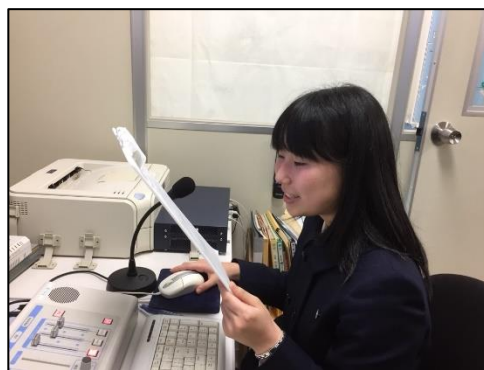
選挙コンシェルジュを通して、たくさん経験し、学んで下さい。

そして何より、楽しんで活動してください!!!

今治の地から応援しています!!

(6)5期生 見乗 菜祐さん

選挙コンシェルジュの活動では、防災行政無線の収録をはじめとする、様々な貴重な経験をさせていただきました。松山市の職員の方や大学生の方々との関わりを通して、企画立案力を学ぶことができ、自己成長につながったと考えています。また、当時高校生だった私にとって、選挙コンシェルジュでの活動は、現職の地方公務員の仕事に興味を持つきっかけになり、とても感謝しています。



(7)6期生 西谷 知朗さん

選挙コンシェルジュ10周年おめでとうございます。

2019年頃に選挙コンシェルジュをしておりました西谷です。



コンシェルジュの活動で一番印象に残ったことは、ひとつには決めきれないのですが、活動全体を通じて出張授業や学祭でのブースの設置など、選挙権が与えられるのが18歳に引き下げられてから数年しかたっていないころから既に若者の選挙参加に向けた活動を盛んに行っていたことが印象に残っています。

選挙コンシェルジュは10周年を迎えましたが、未だ若年層の投票率が低いという問題は解決しておりません。しかし、皆さんが活動することで松山市から若年層の投票率の増加を目指すことは可能だと思います。

それでは、選挙コンシェルジュの皆さん、これからも頑張ってください。

(8)7期生 須山 周利さん

私は、2019年の県議会議員選挙の時期に、選挙活動を同世代及びより若い世代にもっと広めたくてこの選挙コンシェルジュの活動に参加させていただきました。

それから約3年間の活動を通して、本当に他ではできない活動をさせていただきました。

例えば、県内の高校での出張講演会。

各校の生徒は自分たちよりも選挙に対する意欲が高く自分たちの意見を持っているので、私たちの講演をまっすぐ聞いてくれました。

また、2021年の衆議院議員選挙の時期には、大学構内での広報活動をテレビ局の方に取材していただいたり、「一票前進」というスローガンを採用していただいて、ポケットティッシュやウェットティッシュに掲載していただいたりしたことはとてもありがたかったですし、社会人として働いている今もそのクリエイティブさを発揮して仕事を



することができているのは、当時の僕の案を採用してくださった松山市選挙管理委員会の皆様のおかげです。

選挙という枠ではありますが、とても広く活動することができ、私自身大きく成長することができました。

今コンシェルジュとして活躍されている皆様、今後関わりを持つかもしれない皆様にとって、選挙コンシェルジュの活動が自身を含めて誰かの成長のきっかけになり、また選挙が身近なものになりますよう、活動から離れた今も強く願っています。

5. 選挙コンシェルジュ活動への評価と今後の期待

(1) 読売新聞東京本社 渡辺嘉久様

18歳の君たちへ「あのころ」の今から始めよう

読売新聞教育ネットワーク事務局記者

渡辺嘉久

18歳だった君たちへの取材を始めたのは松山でした。読売新聞のデータベースを検索すると「18歳の1票 授業で自覚 松山の高校で有権者教育」という記事が見つかります。掲載は2015年6月20日、選挙権年齢を20歳から引き下げる改正公職選挙法が成立した直後のことです。

君たちから話を聞くような機会は、それまでほとんどありませんでした。社会部で警察官、政治部で政治家や官僚を主な取材相手にしてきたからです。当てもなく飛び込んだのが、若者と政治をつなぐ取り組みに積極的な松山でした。選挙管理委員会の大隅哲平さん、高校で政治経済を教えていた越智大貴さんが機会を作ってくれました。驚きの連続でした。

——選挙権があれば投票に行く？

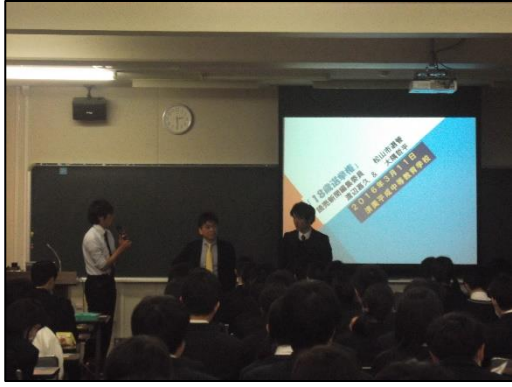
「行かない。政治を知らない自分の1票で社会が間違った方向に行くのは嫌だから」
若者が投票に行かないのは、政治に無関心だからだと思い込んでいました。

——理想の社会を実現するために投票に行けば？

「自分の1票で政治は変わらない。行く意味がない」
矛盾する答えも、それぞれ本音だったと思います。

SMAPのヒット曲「夜空ノムコウ」にあります。＜あのころの未来に／ぼくらは立っているのかなあ＞。当時18歳だった君たちは今、＜あのころの未来＞に立っています。1年間に生まれる子どもの数は100万人から75万人となり、人口減少は加速しました。国の借金は800兆円台から1100兆円超に膨らんでいます。＜全てが思うほど／うまくはいかないみたいだ＞。現状はもっと深刻かも知れません。この先の未来はもっと……

変えたければやはり投票で意思表示するしかありません。「そう言われても」という気持ちは、わかります。政党、政治家のニュースはろくでもないことばかりですから。ここは一つ、考え方を変えませんか。投票は政党や政治家でなく、自分の未来を選ぶものだ、と。君たちには＜あのころの未来＞がこれからも続きます。「こうありたい」という未来に立つため、18歳だった君たち、そして18歳の君たちも、＜あのころ＞の今から始めませんか。



2016年3月



2017年3月



2018年3月



2019年3月



2021年3月



2022年3月



2023年3月



2024年3月

済美平成中等教育学校での主権者教育の様子

(2)一般社団法人 WONDER EDUCATION 越智 大貴様

一般社団法人 WONDER EDUCATION の越智大貴です。松山市選挙管理委員会の皆様、選挙コンシェルジュの学生の皆様、10周年おめでとうございます。WONDER EDUCATION 前身の NPO 法人の発足が2014年ということを見ると、個人的には長く同じ歴史を歩ませてもらっており、もしかしたら誰よりも長くコンシェルジュの活動を見てきたのではないかと勝手に思っています。

NPO 法人を発足したころ、僕は大学院を卒業したばかりの学生でした。この時期は、ようやくインターネット選挙運動が解禁されたり、松山市が全国に先駆けて投票所を大学内に設置したりと、(ようやく!)投票環境が少しずつ変わりだした頃だと記憶しています。それにしても、候補者情報を集めるのにインターネットが使えない、投票所が身近ではない、投票自体の方法を知らない…今考えると、選挙コンシェルジュが発足したころは、選挙の仕組み自体が全く若者の方向を向いていないですね。今の学生の皆様からすると、ちょっと考えられないかもしれません。そこから、選挙権年齢が18歳以上に引き下がり、若者の低投票率問題がクローズアップされると、選挙コンシェルジュの皆様とも選挙教育や選挙啓発の場面で一緒させていただく機会も増えていきました。また、若者選挙啓発のモデルとして、全国各地で活躍される皆様を、いつも尊敬しながら、またときに羨ましく思ってきました。コロナ禍での活動を乗り切り、今でも人数を増やし続けている活動は、とても魅力的だと感じています。

一方この10年間で、残念ながら20代前半、つまり選挙コンシェルジュとして活動する同世代の投票率が改善することはありませんでした。これからは、親子投票や小学校・中学校・高等学校での出張講座といった、「縦の広がり(親世代・後輩世代)」だけでなく、「横の広がり(同世代)」が大事になってくると考えています。ただ、そのためのチャレンジをしようと思うと、「松山市選挙管理委員会の事業としての取り組み」だけではなかなか難しいのではと感じています。そのためには、選挙コンシェルジュの活動自体がより学生主導の活動にアップデートしていく必要があると思っています。同時に、こどもの意見表明が尊重される社会となり、こども・若者政策について、より声を上げやすくなってきました。学生の面白くワクワクするアイデアが、同世代を巻き込み、さらなる投票率の改善につながるよう、期待をしています。

15周年に向けた次の5年は、いろんな意味でよのなかが大きく変わる大事な5年だと思います。その時に、より多くのこども・若者の声が反映された社会になっているように、またこども・若者も含めたより多くの人たちが参加した上での社会が実現しているように、また一緒に活動できると嬉しく思っています!



越智さんを招いての選挙コンシェルジュのミーティングの様子

(3)元松山市選挙管理委員会事務局(総務省主権者教育アドバイザー)大隅 哲平様

エピソード・ゼロ

選挙コンシェルジュが発足10年を迎えられたということで、まずはお祝い申し上げます。

思い起こせば私が選挙管理委員会で従事した平成20年代は、目下の関心事が開票のスピードアップから若者の投票率アップにシフトした時期だったように思います。

そのような状況下で、全国で初となるキャンパス内投票所の設置や選挙コンシェルジュ設立の一員として携わることができたのは、まさに幸運でした。

思い出すのは2人の上司の姿です。仮にGさんとTさんとします。

Gさんからは、事業実施への安心感と勇気をもらいました。

ある夜、お誘いいただいた飲み会でついつい飲みすぎてしまった私は、べろんべろんになり、普段の仕事の相談やら愚痴やらをこぼし続けました。

私はしつこく、大声で、2つの質問を繰り返していました。

「僕は本気でこの事業をやっていいんですか？」

「途中ではしごを外すようなことはしませんか？」

今から思うと大変失礼な発言であるし、自分に自信がなかったのでしょう。ですが、Gさんはいつもどおりの笑顔で「大丈夫、大丈夫」と頷きながら背中をたたいてくれました。

あのつかみどころのない、落ち着いた笑顔を信じることができたから、私は取り組みを続けられたのだと思います。

Tさんからは、事業をよりよく進めるための発想やスキルをもらいました。

民間的な思考や斬新な発想、表現力が特徴の人であり、彼との会話は常に完成されたプレゼンを聴いているようでした。

口酸っぱく言われたことは「わかりやすく、おもしろく見せること。」そして「小さいこともしっかり伝えること。」でした。この教えを守ることにより、選挙コンシェルジュが全国的にも注目されましたし、多くの人に出会うことにつながりました。あの飄々とした屈託のない笑顔に踊らされて、楽しく前向きに仕事のできたのだと思います。行政職員として貴重な経験を重ねることができました。

投票率の向上という課題は、すぐに解決できるものではないですし、特効薬みたいなものもありません。新たな発想を取り入れつつ楽しみながら継続していくことで、多くの素晴らしい出会いが生まれ、選挙コンシェルジュはさらに進化していくものだと確信しています。

最後になりましたが、当時の上司をはじめ、仲間達、そして選挙コンシェルジュとなった方、関わってくださったすべての皆様。10年間のご尽力に心から敬意を表し、厚く御礼申し上げます。



大隅さんの活躍の様子

6. まとめ

選挙コンシェルジュ10周年記念レポートをご覧いただき、誠にありがとうございました。執筆された方の想いをそのまま伝えるため、可能な限り文面をそのまま掲載しました。ご了承いただければと存じます。

選挙コンシェルジュは、発足当初から、選挙啓発や若年層の投票率向上に加えて「選挙コンシェルジュである大学生、高校生自身の成長」を目標に活動を続けてきました。

この度、選挙コンシェルジュ誕生10年を記念し、現役コンシェルジュに加えOBにもコメントをいただきました。彼らは皆コンシェルジュ活動を経て大きく成長し、今は社会の様々な場面で活躍されています。OBの皆さんの今後ますますの活躍を祈念するとともに、現役コンシェルジュには、OBが歩んできた道を踏み固め、先輩のように大きく羽ばたいて頂きたいと考えています。

次の10年がコンシェルジュ活動の更なる飛躍につながることを期待しています。皆様、本当にありがとうございました。

令和6年5月 制作

松山市選挙管理委員会
松山市三番町6丁目6-1
電話(089)948-6620